

南伊勢町UAV（ドローン） 防災プロジェクト

メンバー数：6名 活動場所：南伊勢町
実施主体：南伊勢町役場
担当教員：近藤 玲介（教育開発センター）
活動年度：H28, H29, H30

- ・南伊勢町南島地区内におけるドローン撮影とまち歩き調査
- ・防災課での打ち合わせ（予定）
- ・三重県中高生防災サミット（四日市大）での発表
- ・南伊勢町南島地区内におけるドローン撮影とまち歩き調査
- ・学内打ち合わせ
- ・南島地区内におけるドローン撮影とまち歩き調査
- ・学内打ち合わせ
- ・学内打ち合わせ
- ・新規学生勧誘
- ・学内打ち合わせ
- ・前年度成果物の確認
- ・打ち合わせ

2018

4 5 10 11 12 1 2 3

1. 今年度の活動を振り返って(成果と課題)

平成30年度 CLL活動「南伊勢町UAV(ドローン)防災活用プロジェクト」では、UAVを用いて撮影した画像を南伊勢町の地域防災に活用することを目的に、平成28年度からの継続活動として取り組んでいます。南伊勢町はこれまで繰り返し津波被害を受けてきた経緯から、将来の地震災害に備えて役場の防災課や各自治会が主体となり各種防災・減災対策に取り組んでいます。それらの中でも、本活動ではUAVによって避難所周辺の空撮を行うことにより、従来よりも詳細で視覚的にわかりやすいハザードマップの作成と、特に災害弱者を中心とした地域住民の方々への避難情報の提示を目指しています。UAVの空撮画像は簡単に撮影可能であるだけでなく、画像から3次元モデルの作成も可能です。これらのデータを利用することによって、地図を普段読まない人でも直感でわかるハザードマップの作製を試みています。また本活動では、空撮だけではなく、撮影範囲を全て歩き、避難場所の詳細や避難経路付近の危険箇所や、避難行動が困難と考えられる急斜面や狭い道なども現地調査を行い、ハザードマップに盛り込みます。

今年度の活動では、南伊勢町の方座浦地区と小方竈地区などを対象として、自治会や防災課職員と合同で複数回の空撮と危険箇所調査を行いました。現在、調査結果をもとに地域住民向けのハザードマップの作成を開始しています。前年度の3月10日に南伊勢町で開催された全町民向け防災シンポジウムで公開した地区ごとの防災・3Dマップと同様のものを作成中です。また、2月9日に四日市大で開催される「三重県中高生防災サミット」において、県内中高生向けに本CLL活動の内容を発表し、中高生とともに伊勢志摩の防災を話し合います。今後、より地域を広げ改良を加えながら地域防災に実際に役に立つものを学生の視点から作成して、地域に発信していきたいと思います。

2. 特にアピールしたいポイント

- ・UAVを利用した活動ということもあり、防災活動にそれほど関心がない人にも興味を持ってもらえる。
- ・学生がUAVによる空撮だけでなく地域を実際に歩いて調査を行っていることから、地域の方とのワークショップなどでも地域ごとに合わせた話し合いを行うことができる。
- ・南伊勢町内複数の地区が調査対象となっているので、防災マップの作成と共に各地区の防災設備や住民の意識調査などを行うことができる。

3. 実施主体様からの声

ドローンとばしてドンドンやってください！



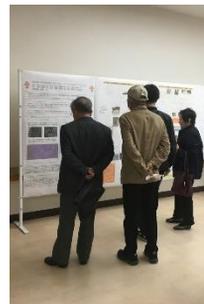
ドローンによる調査1



ドローンによる調査2



小方竈の一次避難所



作成した防災マップの住民向け展示



空撮動画の住民向け視聴コーナー



作成された古和浦地区の危険箇所・避難所マップ